

候然れども商買上より申せば之に一の條件を附するを至當と存じ候即ち右日本紳士は目に付き易き處にカツセル會社出版ロイヤル、アカデミー準員アルフレツド、イースト著ランドスケープ、ペインチング、イン、オイル、カラスより摘譯せる旨を記載し且其雜誌中に日本に於ける本書賣捌店を掲出すべきことに御座候右賣捌店名は封入仕候

右御同意を得度候

今回の御旅行は定めて御愉快に且つ御成功と存上候暖かき西班牙より御歸京後寒氣御自愛奉祈候

千九百〇九年三月十七日

カツセル會社美術部支配人

スコットソン、クラーク

ロイヤル、アカデミー準員

アルフレツド、イースト殿

再伸

右賣捌店名は全部掲載するの必要は無論無之其中の二三店を示せばよろしく候

此賣捌店名の表は封入し來らず、尤も東京にては丸善中西屋等より得らるべく、其他横濱神戸邊りの外國書籍店にもあるべし一部六圓二十五錢

△ △ △

此頃歸朝された矢崎千代二氏の談話に曰く、『繪には研究のためと展覽會向きと感興に成るのと三種ある、第三のが眞の繪畫だ、

旅行して作つた繪は感興のために稀に傑作が出来るから、研究時代の間にも楽しみがある——繪には悟りが肝要だ、氣が働かなければならぬ、心持や境遇の變化を要する故、畫家と旅行は離れぬものだ——外遊中で獨乙の畫家の勉強には感心した、サキソニー邊では、畫家の如きは瀛車の四等に乗つて寫生に出掛ける、深林なぞに入り、二三日位は野宿して製作を續ける、其代り餘り熱心のため、畫風も偏し過ぎ、其上氣が狂ふたり自殺するものが割合に多い——次に二流以下で自活してゐる畫家は、大抵獨身者で、一生研究三昧に了る、何分畫家が多過るために、是等の人を満足に養ふことは出来ないのだらう——一流の人の作なら何萬圓でも出すが、二流以下のならば只でも貰はぬといふやうな調子で、實力があつても世に知られぬ人は不遇に了らねばならぬ、日本なぞその憂はない——巴里の畫家は皆吞氣だが、英國では若い連中でも却々眞面目で、會合の約束など一分も間違はない——俗悪なアメリカでも畫家の連中は別天地で氣持がよい』云々(中央新聞)

日本水彩畫會五月例會は二十三日開會、午前は大下講師の『時代思潮と學生』といへる講話あり。午後磯部、萩原、戸張、大下諸氏の出品畫二百點に對する批評あり、戸張氏は『構圖』について有益の話あり、今回の受賞者は榎本滋氏なりき。